

## JCOG0806-A

# 「子宮頸癌 Ib1 期を対象として縮小手術を評価する 第Ⅲ相試験の準備のための観察研究」の概要

### 研究対象

1998年～2002年に初回治療として手術療法が行われた子宮頸癌Ib1期の患者さんを対象とします。

### 研究概要

子宮頸癌Ib1期の患者さんの現在の標準治療は「広汎子宮全摘術」ですが、「広汎子宮全摘術」より体への負担が少ない手術方法として「準広汎子宮全摘術」があります。我々は「準広汎子宮全摘術」を行った場合の治療成績と「広汎子宮全摘術」を行った場合の治療成績は同じ程度であると考えていますが、両者を比較検討した試験はありません。これを証明すべくJCOG婦人科腫瘍グループでは、ランダム化比較試験を計画しています。ランダム化比較試験を行うには、子宮頸癌Ib1期の患者背景、頻度、治療成績などを事前に把握する必要があります。本研究は次期第Ⅲ相試験に向け上記情報を収集検討します。

### 研究の意義

子宮頸癌Ib1期の患者さんに対し、より侵襲の少ない準広汎子宮全摘術が標準治療となりうるかを検証する試験を行う上で、本研究の結果は非常に重要な情報となります。

### 目的

子宮頸癌Ib1期手術治療施行患者に対し、その手術術式と摘出標本の病理組織学的所見、治療成績などに関する調査を行い、腫瘍径2 cm以下の症例に対する縮小手術の可能性を検討します。

### 方法

1998年から2002年に初回治療として手術療法が行われた子宮頸癌Ib1期の患者さんを対象とし、手術術式、摘出標本の病理組織学的所見、治療成績などを既存資料から収集します。

### 個人情報保護に関する配慮

本研究参加施設に通院されている方で、本研究が当てはまると思われる方は、カルテなどに記載されている既存の情報を取得し、利用させていただいている場合があります。勿論、本研究では個人が特定されるような情報は一切公表しません。ご自身の診療情報が利用されているかどうかお知りになりたい方は担当医師までご連絡下さい。また、ご自分の情報を研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、担当医師までご相談くださいますようお願いいたします。

## **研究機関名**

JCOG婦人科腫瘍グループに属する32施設

([http://www.jcog.jp/basic/partner/group/mem\\_gcsg.htm](http://www.jcog.jp/basic/partner/group/mem_gcsg.htm))

静岡県立静岡がんセンター婦人科、島根大学医学部産婦人科

## **研究代表者(本研究全体の責任者)**

国立がんセンター中央病院婦人科 笠松高弘

## **研究事務局(本研究に対する問い合わせ先)**

加藤友康 (国立がんセンター中央病院婦人科)

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL: 03-3542-2511 (内線2286)

FAX: 03-3542-3815